

# 文化理解を視野に入れた 日本語授業の取り組み

-----台中市立惠文高校を例として

惠文高校  
李金娟

# 一、恵文高校の日本語授業現状

- 2009年度から  
週2時間/18週/1年間の形で実施
- 授業時間：土曜日の午前
- 対象：全校学生，1年生が多数

## 二、学習の動機

- 日本語を学ぶ → 言語学習
- 日本に興味がある → 文化理解



大切なのは学習動機を維持

## 三、ポスター発表を行う理由

1. 授業の時間数が短い
2. 文化に関する分野が広い



先生一人では対応しきれない

3. 自律学習をさせたい

## 四、ポスター発表を実施-①

- テーマ 「台湾で見つけた日本」
- 出處/發現地/リソース 「発見地」
- 内容を説明 「これです！！」
- 日本語の学習  
「ね、知ってる？？先輩が教えてあげます」
- 学習効果の確認 学習カードに記入  
(参考資料1)

## 四、ポスター発表を実施-②

### ルール：

- 4~5人1組でポスターを作製, 計12組
- 内容、形式、使用言語は自由
- 発表時1人1つの日本語を教える
- 学んだ日本語のうち, 2つを学習カードに記入

## 四、ポスター発表を実施-③

- 準備作業

ネットCM「豆しば」を見せ、キャッチフレーズの「ね、知ってる？」で楽しさを高める

- 当日教室内で発表

1人10分の発表

- 校内で展示およびコンテスト

食堂にポスターを掲載、投票してもらう



火影忍者 12



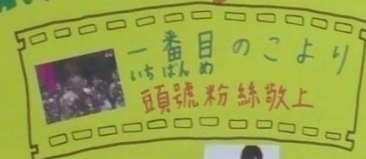
A poster for the anime 'Naruto' featuring the title '火影忍者' (Naruto) in yellow, a red and black spiral symbol, and several horizontal orange bars. At the bottom, the word 'NARUTO' is written in a stylized font. A person is visible in the background.

從日劇 日文 11

開學 學

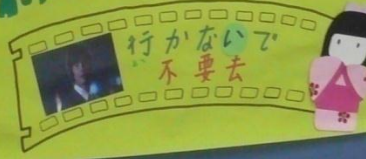
Action 1

一番目のこより  
いはいめ  
豆頁號粉絲敬上



Action 2

行かないで  
不要去



A poster titled '從日劇 日文 11' (From Japanese Drama Japanese 11) with a yellow background. It features two film strips. The first film strip is labeled 'Action 1' and contains the text '一番目のこより いはいめ 豆頁號粉絲敬上' (First chapter, hey hey, dedicated to the Douyexiang fans). The second film strip is labeled 'Action 2' and contains the text '行かないで 不要去' (Don't go, don't go). There are also small photos of people and a drawing of a girl.

發現日本 10



A poster titled '發現日本 10' (Discover Japan 10) with a yellow background. It features various small images, text, and a drawing of a girl. The poster is part of a series of similar posters in the background.



# 五、ポスター発表のメリット

## 5.1 素材が多様で入手しやすい

- 台湾では日本商品、メディアなどが身近にある。
- クラスに哈日族が多いので、課題の方向性が決めやすい。
- 12組のポスター発表を通して、素材の多様性・情報の取得やすさを証明する事ができた。

## 5.2 自律学習の動機付けのきっかけになる

- 文型などは教室内で先生に教わる。
- 文化や概念性の理解は日常生活での経験によりある程度を理解ができる。



- 自分の興味あるものや知りたい物がきっかけになる。→ 自律学習の動機付け

## 5.3 得たものを友達に紹介・

### 話題に共感

- 自分が知っているようで知らないものを調べて学習する。
- 同世代なので、興味があるものに共感をもつ。教師と学生の上下関係と違い、世代の差も少ない。
- 知っているものを共有したり、互いに発信しながら文化と言語を学ぶ。

## 5.4 おしゃべりの形で文化に触れたり、勉強の面白さが増えたりする

- 「お祭り遊び」の気分で教えたり、学んだりする。
- 目的は文化理解。使用する言語は自由（中国語／日本語を併用）なので、面白さが高まる。
- （対面式の）談話で、緊張感を克服する。

## 5.5 チームワークで役割分担と個人の長所を発揮

- 分担作業で事前準備の負担を軽減する。言語だけでなく個人の長所を活かし、準備の過程で新しい物事を学ぶ楽しさも学ぶ。
- 教室外でも日本語や関心ごとについて学習ができる。

## 5.6 同世代の話題に共感しやすい

- 友達と相談したり、実際に店まで足を運んで得たものもあり、プロセスを通して学習の楽しさを知る。

（大創で写真を撮った例）

- 話題の共通性が高い、若者の視線から選んだ言葉は自律学習の動機を引きやすくなる。（洗顔料アクネスの歌とダンスの例）
- 同年代だと共感が得やすく、学習効果も高くなる。



## 六、反省と問題点

### 6.1 指導する人／準備時間が足りない

教室内の指導時間が足りないだけでなく、発表内容も多様多彩。

### 6.2 ポスターの効果を発揮したい

発表後、内容について不足や反省の授業時間がほしい。

## 七、今後の課題

### 7.1 日本語学科と提携して、 大学生をTAとして活用する

- 予め大学生と計画を立てて、人手と指導時間の不足を補う。
- 今回を例としてTAが2人で1グループを4~6時間指導する。

## 7.2 積極的にポスターの成果を活用する

- 発表後残りが2～3週があれば、そのポスターを使って、言葉の復習や教師が関連文化を補足する。
- 発表したポスターを教材の素材として、今後の学習に興味を高める。

# 恵文高校の日本語授業の記録

- 新入生の体験授業
- 期末学習発表
- 文化の紹介
- 浴衣を紹介 年賀状を制作
- 国際交流 311地震を声援
- 校外コンテストに参加